

第2回富良野市総合計画・総合戦略有識者会議 議事録

- 開催日時 令和4年3月28日（月）午後2時00分から午後4時10分
- 開催場所 富良野文化会館 大会議室
- 出席者 <委員>北会長、荒木委員、加茂委員、牛島委員、桑原委員、藤田委員、水間委員、平間委員、小玉委員、飯沼委員、黒木委員、山崎委員、岩井委員（計13名）
※欠席委員 石川委員、菊地委員、倉西委員、柿崎委員、遠藤委員、吉中委員、林委員（計7名）

<事務局>近内教育長、稲葉総務部長、山下市民生活部長、柿本保健福祉部長、川上経済部長、小野建設水道部長、佐藤学校教育部長、藤野財政課長、関澤企画振興課長、猪股企画振興係長

<受託事業者>フラノデザイン(株) 中村、大曾根
北海道立総合研究機構 五十石

1. 開会（午後2時00分）

- ・事務局より委員の変更、欠席委員について説明。

2. 市長挨拶

- ・4月1日より「『美しい』のその先へ。WAわがまち、ふらの」をスローガンとした第6次富良野市総合計画がスタートし、1年を迎えようとしています。
- ・総合計画の策定にあたっては、委員皆さんの熱い議論のもと「共創」と「デジタル」の二つのアプローチを両輪とし、ひと、しごと、まち、自然の4つの輪の取組を一步ずつ進めてきました。
- ・本日の会議では、1回目の有識者会議においてアイデアをいただいた幸福度調査について結果がまとまったので報告させていただきます。
- ・総合計画では、10年後の富良野のまちを見据えて、市民一人一人が幸福を実感できるよう、定期的に幸福度を測定し、施策の見直しなどへの活用も図っていくこととしています。委員各位のご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

※以降は、設置条例第5条に基づき、北会長が進行。

3. 議題

- (1) 令和4年度 第6次富良野市総合計画前期基本計画《実施計画》について
別添資料1に基づき、関澤企画振興課長より説明

<質疑>

【荒木委員】

- ・地域おこし協力隊が増員されることをうれしく思っています。全国調査では協力隊の約半数がその地域に残って定着をしており、市の総合計画・総合戦略に基づいた形でこうした外部の方の力を呼び込み、引き続き活用をお願いします。
- ・地域では新たに会社を立ち上げる機運が高まっており、地域おこし協力隊の定着に向けてそうした起業という点も考慮してほしい。

【関澤課長】

- ・地域おこし協力隊の大きな目的の一つとして、任期終了後に地元で定着することがあります。令和4年度に地域おこし協力隊を増員することになりますが、地域に定着できるよう、進めていきたいと考えています。

【平間委員】

- ・中富良野町では、地域おこし協力隊を8名募集すると新聞記事に出ていました。自治体で採用できる人数は何人でも良いのでしょうか。

【関澤課長】

- ・地域おこし協力隊の人数制限はありません。国から特別地方交付税で人件費を含め470万円が補填される制度となっており、多いまちだと10人を超えるところもあります。

【飯沼委員】

- ・成年後見制度について、まちの将来を考えるともっと充実させる必要があるのではないのでしょうか。過去、市民後見人制度の研修に参加したが、資格者である弁護士、行政書士だけでは受け持つ人数が多いため、社会福祉協議会や広域連携で進めようと担当者レベルではありましたが、富良野市の社会福祉協議会に断われた経過があります。当時の担当課長が沿線を回ったが残念ながら結果が出ませんでした。事業のなかに権利擁護センター事業があるが予算規模を含めどのような内容なのでしょう。

【柿本部長】

- ・権利擁護事業費としては、令和4年度は1600万程となっています。高齢化が進み、地域共生社会を進めるためには、成年後見制度の堅持については重要であり、引き続き、推進を図っていきたいと考えています。また、令和3年度から権利擁護センターの中核機関として、社会福祉協議会に担っていただいております。市民後見人を目指していく方へのサポートについて、これから協議を進めていきたいと考えています。

【飯沼委員】

- ・地域には必要としている方が多くいます。人にやさしいまちを目指すためにも、スピード感を持って進めていただきたい。

【北委員長】

- ・権利擁護事業について、過去の取組の内容、今後の課題等についてご意見をいただいた。より充実した制度とするよう、努力をしていきます。

【荒木委員】

- ・拡充事業のなかのコロナ関連の中小企業振興補助金については、利子補給等の補助となりますが、他の自治体では国や道の制度で補うことが多いが、富良野市は単独で事業化しています。申請書類も簡素化し多くの事業所が活用しています。結果として、コロナ関連で倒産した事業所は富良野では一件もありません。こうした事業を推進していることに関してお礼を申し上げます。

(2) 2020年国勢調査確定に伴う富良野市の人口動態について

- ・別添資料2に基づき、関澤企画振興課長より説明
- ・別紙資料「国勢調査と社人研予測」に基づき、荒木委員より説明。

(3) 富良野市幸福度調査について

別添資料3-1～3-8に基づき、フラノデザイン、道総研牛島主幹より説明

<質疑>

【黒木委員】

- ・今回の結果では富良野の幸福度指数が全国・全道より大きく上回っています。全国・全道と比較して調査対象や調査内容が異なっているなど要因はあるのでしょうか。

【牛島主幹】

- ・本調査は、イシュー・デザインが作成した調査となっていますが、特徴的な計算方法を用いており、回答のうち、上位二つのプラス回答部分については100点、それ以下は得点に反映されないという方式をとっており、大きく差がでる計算方式となっています。ただ、低いものを高く見せる計算方法ではありませんので、富良野市民の回答として高いことは間違いありません。また、数値は偏差値なので実際の数値はもう少し高いと考えています。

【岩井委員】

- ・アンケートの回答率について、他のアンケートと比較して高いのでしょうか、低いのでしょうか。

【牛島主幹】

- ・道総研と市町村と共同で行うアンケートの回答率としては3割前後となります。前回富良野市で行った別の調査では約3割ということで、その調査と比較すると低くなっています。

【岩井委員】

- ・回答率を上げる方法を検討しているのであれば教えてほしい。

【荒木委員】

- ・対象人数、回答数等を考えれば統計学上は何ら問題のないデータだと考えます。道総研でそのあたりについて補足してはどうでしょうか

【牛島主幹】

- ・今回の調査では2000名を対象に実施を行いました。年齢別にすると膨大な量の分析となることから、本調査では地域別の傾向について分析を行うこととしています。

【関澤課長】

- ・回収率向上の方法ですが、今回の調査量のボリュームが多かったことも少し回収率が下がった要因かと考えています。なお、幸福度調査については、定期的にアンケートを実施し、変化を見ていくことが重要と考えます。回答率を上げる手法については、引き続き、検討させていただきます。

【荒木委員】

- ・調査の関心度を上げることが重要であり、こうした調査を進めていくことで、人から人への繋がり、見える化も図れると考えます。
- ・昨年行った高校のあり方検討会では、最終的にどうやって地域に残ってもらえるのか、子どもたちの幸せを第1に考え、色々と議論をしました。子どもたちが自分たちの地域をどう思っていて、将来、住んでくれるのかといった意識の把握が重要であり、施策への反映には不可欠となります。こうしたアンケートは非常に価値があると考えます。

【藤田委員】

- ・本調査の結果をどう活用し、また結果をどう伝えていくのでしょうか。

【関澤課長】

- ・先程提案しました活用のプロトタイプについては、3月に提案を受け、これから内容を含めて具体的な取組を進めていくこととなります。色々な方法があるかと思うので、委員の皆様からのアイデア等をお願いいたします。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・学校、企業、地域等、様々な場面で活用することで、そこをきっかけとして、次の動きにもつながる可能性がありますので、プロトタイプの動きをしっかりと進めていくことが重要と考えます。

【荒木委員】

- ・富良野高校、緑峰高校とこれだけのアンケートをしていただいたので、きちんと高校にフィードバックをしてほしい。また、ふるさと教育として学生たちが議論することが出来れば素晴らしいと思います。中学生は難しいかもしれないが、ぜひ、地元富良野のことを知ってもらうきっかけとして取り組みについて検討してはどうでしょうか。

【北委員長】

- ・幸せですから、人それぞれの幸せがあるということで、当初から説明があったとおりに思います。その幸せの形について、それぞれの委員のみなさんからもあったとおり、見える化、一つ形にするには、色々な方法があると思います。行政としても色々な支援のあり方があろうかと思いますが、引き続き、ご意見をお願いいたします。

【山崎委員】

- ・東山は樹海学校として子ども達が新たな環境で学ぶこととなります。このタイミング

で樹海地区として取組をしてみたいと考えているが、出来上がり予定はいつごろとなるでしょうか。

【フラノデザイン 中村】

- ・「しあWA!セカード」については、まずはプロトタイプということで、早急に具現化していきたいと考えています。幸せのタネボードについては、スケジュールについては現時点でお示しできませんが、今後具体的な部分について詰めていくこととなります。

【北委員長】

- ・視える化することで感度を高めていくという要素もあると思うが、感度を高めていくという部分について補足があればお聞きしたい。

【フラノデザイン 中村】

- ・先程の回収率を上げるという話にも繋がりますが、今回の調査では封筒を開封してもらえやすいデザインとし、また、家族で話し合って回答してほしいといった趣旨のことも依頼文書に入れて、少しでも幸せについて触れる機会を増やし、感度があがるような工夫をいたしました。

【フラノデザイン 大曾根】

- ・幸せ感度が大事、幸せを感じるものが多くあることが大事としてしまうと、この報告書を読んだ今あまり幸せを感じていない人は、とても苦しいものとなりかねません。視える化は非常に大事ですが、少しずつ感じる方が増えていくキッカケとなれば良いと考えています。視える化するにあたって、押し付けになってしまわないよう、気を付ける必要があります。

【荒木委員】

- ・今回の調査は細かい部分まで聴き取りをしており、非常に素晴らしい調査だと思えます。これからはそれぞれが嬉しいと思うことを、市民のなかで広げて気付きを増やししていくことが大切だと思えます。

【黒木委員】

- ・幸せ溢れるまちということで、今後様々なワークショップ等も考えていると思えますが、できればいつでもどこでも気軽に集まれる場所が富良野にもっとあれば、回収率も増え、幸せを感じる方も増えると思えます。

【飯沼委員】

- ・公表するにしても、市のホームページは見づらい。リニューアルされると聞いたが、進捗状況はどうなっているのでしょうか

【西野スマートシティ戦略室長】

- ・ホームページについては7年間リニューアルをしていっていませんでしたが、今年度リニューアルに向けた作業を行っていきまして、4月から新しいホームページとなります。

5. その他

【岩井委員】

- ・0歳～4歳までの人口が増えていない現状から、現在行っている1歳までのおむつの支援について、2歳まで拡大することを検討できないか。現実として1歳を超えてもおむつが必要な子どもはいると思えます。

【北委員長】

- ・貴重なご意見として受けさせていただきます。

【山崎委員】

- ・外国語指導助手（ALT）について、保育所でも英語の授業が出来ればと、2019年コロナ前に相談したところ、年長さんで実施を検討することの回答がありました。今後保育所等での英語の授業の可能性があるのかお聞きします。

【佐藤学校教育課長】

- 学校の授業がない長期休業期間中となりますが、1～2回程度なら実施が可能と考えますので、今後調整させていただきます。

6. 今後の予定

- 今後の有識者会議日程について事務局より説明

【黒木委員】

- 有識者会議のメンバーは一般枠もあるが、様々な組織から出ていることもあり、男女比率や年齢などの偏りがあると思います。もう少し柔軟に女性や色々な世代が入ることによって多様な意見が出てくるとと思います。組織にとらわれず、委員の選定について検討していただきたい。

【関澤課長】

- 委員名簿に記載しています機関名がございますが、産業界、行政機関、教育、金融、労働ということで分けをしており、総合戦略を策定するにあたり必要な条件ということで設定しています。枠組みを大きく変えることは難しい部分もあるが、多様な意見を頂くといい点で工夫する必要はあるかと思います。また、全体の人数を20名と条例で決めており、公募委員については4名としているので、そうした整理も必要となります。

【荒木委員】

- 委員数は行政で決めているわけでも変更できるのではないのでしょうか。

【関澤課長】

- 委員数等については、確認させていただきます。

6. 閉会（午後4時10分）

【北会長】

- 本日は幸福度調査の協議がメインとなりましたが、幸せを感じられる、あるいは自分の存在感も感じられる、そういったものではなかったでしょうか。
- 人と人が互いに認め合い、認め合うところから助け合い、支え合い、そしてお互いを理解することから、自分の価値観、存在感を相手も認めながらということが、まち全体の幸せのベースになると思っています。
- 笑顔で、その幸せを感じられるような、今後の議論をいただきますよう、また、本年度最後の会合となりましたけれども、委員皆さんのこの間のご協力にお礼を申し上げ、会議を終了させていただきます。